

北海道港湾空港建設協会

会報

平成29年 9月

北のみなと

No.92

〔写真提供：稚内開発建設部〕



目次

就任挨拶 (北海道開発局 港湾空港部長 眞田 仁) 1

Report

日本港湾空港建設協会連合会 第34回通常総会開催 3

受賞

平成29年春の叙勲受章者 (榊森川組 榊森川基嗣社長が旭日双光章を受章) ... 4

平成29年度 漁港漁場関係事業優良請負者表彰受賞者 4

平成29年度 北海道開発局優良工事等の表彰 5

平成29年度 北海道開発局港湾空港関係功労者表彰 8

平成29年度 各協会の表彰に関する記事 9

- ・(公社) 日本港湾協会会長賞表彰 港湾功労者賞
- ・(一社) 日本海上起重技術協会会長表彰
- ・(公社) 日本港湾建設協会連合会会長賞表彰 港湾功労者賞

各種記事

我が社の安全衛生管理

(丹羽建設株式会社 総務部 佐々木 秀則) 12

自航式多目的船 AUGUST EXPLORERを就航

(東洋建設株) 14

私の趣味「学生の頃の夢をおいかけて」

(株式会社南組 南 修) 16

Topics

イベント

釧路川総合水防演習 初の広域連携防災訓練を実施 19

平成29年度 第1回 小樽港フィールド・ラーニング開催 20

釧路みなとコンサート 21

大型客船等寄港

・白老港に初寄港「ばしふいっくびいなす」 22

・室蘭港に「飛鳥II」寄港 初めてとなる「豪華客船のクルーズとヘリコプターの遊覧飛行の組合せ」... 23

・小樽港に今年初となるクルーズ客船「コスタ・ビクトリア」が寄港... 24

・苫小牧港に「北極海航路の砕氷船」寄港 25

各港で舟漕ぎ大会、ボートレース開催

(釧路、根室、苫小牧、函館、室蘭、稚内) 26

Information

事務局だより 29

業界だより 29

広報委員会だより 29



東浦漁港はオホーツク海北部に面し、宗谷岬の南約15キロメートルに位置しており、沖合での操業や宗谷岬を航行する漁船の避難基地のほかホタテ沖合底引き網漁業を主体とする漁業基地となっています。

昭和50年代初頭からホタテ地蒔き養殖の成功により、ホタテ漁船の水揚げ基地となっています。

就任挨拶



北海道開発局 港湾空港部長 眞田 仁

はじめに

国土交通省 北海道開発局 港湾空港部長に着任しました。

北海道港湾空港建設協会並びに会員の皆様には、日頃より北海道における港湾・空港行政の推進にあたり、多大なご支援とご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

北海道は、広大な農地や豊富な水産・森林資源を有する我が国の食料供給基地であるとともに、特徴的かつ魅力的な観光資源が存在し、訪日外国人旅行者の1割が北海道を訪れるなど、世界水準の観光地として大きなポテンシャルを有する地域です。

昨年3月に閣議決定された第8期北海道総合開発計画に基づき、北海道の港湾・空港を高品質な北海道ブランドの農水産品・食品の輸出拠点、外国人旅行者の受入拠点として発展させることで、北海道の強みである「食」と「観光」を戦略的産業として育成し、「世界水準の価値創造空間」の実現に向け寄与していきたいと考えています。

港湾の取組

港湾については、大型船による穀物の一括大量輸送に

よる安定的かつ安価な輸送を実現するため、国際バルク戦略港湾である釧路港において国際物流ターミナル整備事業を進めております。これにより、飼料原料の海上輸送コストを約4割削減し、酪農家の経営改善及び生産力向上による我が国の酪農・畜産業の競争力強化が期待できます。

農水産品に目を向けると、北海道の農水産物の食品輸出額は5年間で約2倍の701億円（平成28年）に増加しています。特に水産品については、北海道全体の水揚げのうち、港湾での水揚げが全体の4割を占めるなど、国内外への食料供給に貢献しています。今年5月には道内6港湾管理者が連名で策定した「農水産物輸出促進計画」が国の認定を受け、連携を図りながら輸出促進に向け着実な推進を図るための体制づくりがなされたところです。今後は、北海道総合開発計画の農水産品輸出額の目標額1,500億円の達成に向け、水産物の水揚げ時の品質、衛生管理機能の強化に資する屋根付き岸壁等の整備により更なる輸出増加が期待されているところです。

また、海外への小口冷凍・冷蔵輸送サービスに加え、輸出手続き支援や海外企業とのマッチングも行う「物流」と「商流」を組み合わせ、産学官一体となった取り組みである「北海道国際輸送プラットフォーム（HOP）」

は昨年度5カ年事業を終了しました。これまでの取り組みを通じて、道内企業約250社が初めて海外へ輸出し、54百万円相当の商品が輸出されました。本年4月にはHOP推進協議会の民間業者が中心となり「一般社団法人北海道国際流通機構」（以下、流通機構）が設立されました。6月には北海道産品の輸出促進を図るべく、北海道開発局と流通機構で連携協定を締結し、道の駅やみなとオアシスにおける「海外おみやげ宅配便」の導入や、北海道産品の小口コンテナ輸出等の取り組み等を進めてまいります。

観光面では、全国的にアジアをはじめ世界のクルーズ人口が増加しており、訪日クルーズ500万人に向けた取り組みが進んでおります。北海道においても、平成29年は113回の寄港が予定されており、平成23年から1.8倍に増加しております。特に10万トンを超える大型クルーズ船の寄港が急増していることから、大型クルーズ船の受け入れ環境の整備により、クルーズ船の寄港増加やインバウンド観光の拡大に貢献してまいります。

一方で、離島においては、港湾は生命線であるフェリーが就航するなど安定的な住民生活の確保や産業振興などを図るために重要な社会資本であり、引き続き港内の静穏度確保や老朽化対策を推進します。

さらに、近年、台風や爆弾低気圧の通過など気象状況・海象状況の変化があることから、防災・減災対策、老朽化対策の推進など国土強靱化に向けた取り組みも強化してまいります。

今年8月26日には、「みなとオアシスりしりとう・くつがた」が道内10箇所目の「みなとオアシス」として登録されたところです。「みなとオアシス」は、地域住民の交流や観光の振興を通じたみなとを核としたまちづくりの促進、急増する訪日クルーズ旅客船の受け入れ環境の提供、災害発生時における支援機能として役割を果たしております。加えて、6つの港湾管理者においては、本年度になって港湾法に基づく港湾協力団体を指定するなど、官民連携による更なる地域活性化が期待できます。

そのほか、近年、大いに関心を集めている北極海航路

を利用した船舶が急増しております。この北極海航路ルートにおいて、北海道はアジアの玄関口にあたる地理的優位性をもっています。民間企業からは北海道での給油寄港が求められており、調査・情報発信に努めてまいります。

空港の取組

空港については、政府の訪日外国人旅行者の目標2020年4,000万人、2030年6,000万人に向けた航空需要の急速な拡大に対応し、北海道全体の産業及び観光の発展や各地域の活性化を図ることを目的とした道内7空港のコンセッション方式によるバンドリング（複数空港の一体運営）に向けた手続きが現在進行中であります。

その中でも、新千歳空港においては旺盛な国内需要に加え、外国人旅客の急増により空港の利用者は平成27年度に2,000万人を超え、我が国5番目の規模を誇る拠点空港となっており、国際線旅客数は平成28年度には約270万人を記録しており5年連続して過去最高を更新しております。このため、急速に拡大する国際線需要に対応するため「国際線ターミナル地域再編事業」として、既存国際線エプロンに給油施設を備えたエプロンを3スポット増設するとともに、空港の南側に誘導路を新設するなどの整備を進めてまいります。

また、大規模地震時における航空機重大事故や緊急輸送の停滞等を防ぐため、引き続き滑走路等基本施設直下の構造物耐震化に取り組むとともに、滑走路等の老朽化対策や滑走路端安全区域の調査・整備を進めてまいります。

最後になりますが、これからも北海道の港湾・空港の整備を着実に進めてまいりますので、貴協会並びに会員の皆様の一層のご支援をお願いいたします。

日本港湾空港建設協会連合会 第34回通常総会開催



日本港湾空港建設協会連合会の第34回通常総会は、平成29年5月10日（水）に東京都の明治記念館で全国より役員、代議員が出席し盛会裡に開催されました。川島会長の挨拶に続き、国土交通省菊地港湾局長の来賓祝辞があり、議事に移った。

議案は、平成28年度事業報告及び収支決算、平成29年度事業計画及び収支予算（案）が提出・承認された。総会后、来賓、会員等多数の方が出席されて情報交換会を開催しました。

第3号議案である平成29年度事業計画は以下のとおり。

平成29年度 事業計画

1 会報の発行

港湾空港関係予算・技術開発等、港湾空港関係の諸情報並びに会員の意見・要望等を掲載した会報を年4回発行し、会員相互の情報交換を行う。

2 研修講習会等の開催

港湾空港建設事業の社会的地位の確立と技術の開発向上を目的とした講習会及び見学会を実施する。講習会の開催は春、秋の2回中堅技術者を対象に東地区、西地区において実施し、11月中旬に経営者及び幹部社員を対象に経営者セミナーを東京都において開催する。また、「独占禁止法とコンプライアンスに関する講習会」を（一社）日本埋立浚渫協会と共催で行う。その他、ミニ研修会（行政）を協会会議室で随時開催する。

3 要望及び意見等の発信

- ①港湾空港関係予算及び港湾空港事業に関わる諸課題について、関係方面及び関係機関に対して要望又は意見交換を実施する。
- ②港湾空港建設に係る当面の諸課題に関する要望や意見交換を、各地区連合会と共同して関係機関に対して実施する。
- ③都道府県協会が行う港湾空港建設に係る当面の諸課題に関する関係機関との要望や意見交換を支援、共



同して実施する。

4 調査研究

- ①港湾空港建設業の発展に関する調査研究及び資料の収集等を行う。
- ②地区連合会技術委員会の活動経費に対して補助を行う。
- ③契約、設計、積算に関する調査研究。
- ④労働、安全、税制に関する調査研究。
- ⑤建設行政に関わる調査研究。

5 港湾及び空港の整備・振興に関する広報・啓発活動

- ①港湾及び空港の整備・振興に関し、広く社会一般に理解を得るための広報・啓発活動を行う。
- ②港湾及び空港の整備・振興の必要性を広く国政の場に反映するため、関係国会議員等の理解を得るための活動を展開する。

平成29年春の叙勲受章者 (株)森川組森川基嗣社長が旭日双光章を受章

平成29年春の叙勲受章者が発表され、(株)森川組の森川基嗣社長が建設業振興功勞で旭日双光章を受章した。

森川基嗣社長は、長年にわたり建設業に従事する傍ら、関連する各種団体の役員を歴任し、建設業の振興、発展、後継者の育成に多大に尽力していることが高く評価された。



森川 基嗣 氏
生年月 昭和21年 8月

学 歴	昭和44年 3月	日本大学文理学部	卒業	
	職 歴	昭和44年 4月	三共開発株式会社	入社
		昭和46年 3月	株式会社 森川組	入社
		昭和47年 2月	同社	専務取締役
		昭和59年 5月	同社	代表取締役社長 現在に至る
団体歴	平成 2年 4月	(社)函館建設業協会	理事	
	平成16年 5月	(社)北海道建設業協会	理事 現在に至る	
	平成24年 5月	(一社)函館建設業協会会長	現在に至る	
賞 罰	平成 6年 5月	水産庁長官表彰 (漁港建設事業の振興)		
	平成12年 5月	(社)全国建設業協会会長表彰 (建設業界発展の功績)		
	平成16年 5月	全日本漁港建設協会会長表彰 (漁港建設事業振興の功績)		
	平成21年 5月	日本港湾空港建設協会連合会会長表彰 (港湾建設事業推進の功績)		
	平成27年 7月	国土交通大臣表彰 (建設事業の振興の功績)		

平成29年度 漁港漁場関係事業優良請負者表彰受賞者

水産庁の平成29年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰で、道内からは丹羽建設(株) (本社：浜頓別町 丹羽幹典社長) が農林水産大臣表彰、渡辺建設工業(株) (本社：根室市 渡部仁志社長) が水産庁長官表彰にそれぞれ輝いた。両者の卓越した技術力と業績をたたえ、このほど表彰式が水産庁長官室で執り行われ、晴れの栄に浴した。

同表彰は、高い技術力と優れた施工管理で、他の模範となる成果を残した請負者を顕彰することで、円滑な事業の推進につなげることを目的に実施している。

農林水産大臣表彰



丹羽建設(株)
丹羽 幹典 氏
代表取締役

会社概要

本社所在地	浜頓別町
創業	大正 6年
設立	昭和29年
資本金	8,000万円

水産庁長官表彰



渡辺建設工業(株)
渡部 仁志 氏
代表取締役社長

会社概要

本社所在地	根室市
創業	昭和32年
設立	昭和32年
資本金	7,800万円

平成29年度 北海道開発局 優良工事等の表彰

工事成績評定が特に優秀なほか、創意工夫に努め、技術の向上に顕著な成果などを挙げた企業と技術者に対して、局長及び部長表彰を授与

北海道開発局は7月25日、札幌第1合同庁舎で平成29年度優良工事等局長表彰の授与式を行った。平成28年度に完成した工事1,565件の中から局長表彰工事30件（31社）が選定され、工事を施工した企業と、その工事に携わった技術者に和泉晶裕局長が表彰状を手渡し、栄誉をたたえた。

港湾・空港・漁港部門における局長表彰は、①勇・近藤経常JVが施工した「小樽港岸壁改良工事」②渡辺建設工業㈱が施工した「函舞漁港（函舞・温根元地区）建設その他工事」③堀松建設工業㈱が施工した「天塩港外1港建設その他工事」④藤建設㈱が施工した「稚内港北防波護岸改良その他工事」の4件（5社）が受賞した。

開発建設部長表彰は、札幌（勇建設㈱）、函館（工藤・岩倉経常JV）、室蘭（岩倉建設㈱、㈱山口工業所）、釧路（濱谷・山田・真壁経常JV）、網走（㈱藤共工業）が受賞した。

— 港湾・空港・漁港部門における受賞工事 — 【北海道開発局長表彰】

○工事名：小樽港岸壁改良工事

発注者：小樽開発建設部

施工者：勇・近藤経常JV

技術者：



大瀧 立夫氏
（勇建設）



藤原 真一氏
（近藤工業）



【表彰理由】

当工事は、施工箇所が老朽化上屋に隣接し慎重な施工を求められる厳しい条件の下、振動観測等で常に監視を行う対応とともに、狭い岸壁幅で作業エリアが確保できない中、施工・工程管理を適切に行い工期に余裕を持って完成しました。事前混合処理工法では、安定的な強度確保のため分離防止剤添加量の管理を徹底し、改良土投入でGPS誘導システムを用いて効率的施工管理を行う等、改良土の品質向上を図りました。

また、電気クレーン撤去では、老朽化施設の高所作業でありましたが、主桁の座屈防止や偏荷重対策の無線荷重計測器を使用して水平に吊荷を保つ等、安全対策にも十分配慮し無事故で撤去を完了しました。さらに、メッシュシートによる粉塵拡散対策や地域イベントへの積極的協力等、地域社会貢献にも十分努めました。以上の点を勘案し、他の模範に値する優れた工事と評価いたします。

○工事名：歯舞漁港（歯舞・温根元地区）建設 その他工事

発注者：釧路開発建設部

施工者：渡辺建設工業㈱

技術者：



山白 道敏 氏



〔表彰理由〕

本工事の施工箇所は、約7km離れた歯舞地区と温根元地区に点在し、工種も約20種類と多岐にわたり、盛漁期を外す必要もあり冬期施工となりました。また、歯舞地区の岸壁改良は、不可視部分の躯体形状を確認して施工する必要があるうえ、市場に出入りする輸送車両等の往来も多く、第三者災害が懸念されました。温根元地区の西防波堤の補修は、施工性などを把握しながら行う試験施工であり、流水来襲前に完成させるため、工程管理が重要でありました。この条件下で、漁業者と工程調整するとともに、冬期の気象海象状況を把握しながら工期内に工事を完成させました。さらに、品質向上に資するコンクリート高性能被膜養生剤、港内水域環境に配慮した汚濁水処理対策、現場の安全管理マネジメントなどの新技術を活用し、無事故で工事を完了したことは、他の工事の模範となるものでありました。

○工事名：天塩港外1港建設その他工事

発注者：留萌開発建設部

施工者：堀松建設工業㈱

技術者：



犬飼 圭太郎 氏



〔表彰理由〕

天塩港の西外防波堤は、日本海の外海に面しており、波浪の影響を強く受け、消波ブロックの撤去から、基礎、本体、上部、消波工と多様な工種内容となっており、適切な工程管理・施工管理が求められる厳しい現場条件です。漂砂による堆砂の影響で既設構造が埋没していたため、当初想定していなかった砂除去作業が発生し、6月末の実施工程で10%の遅れが生じる困難な状況が発生しました。受注者は工程計画の見直しと共に、創意工夫による複数隻の起重機船による施工、アスファルトマットのずれ止めに基礎捨石を袋詰した部材を用いて水中での撤去作業を無くした安全性に配慮した工法を採用し、工程短縮に努め無事故で工期内に完工しました。さらに出来形は、ケーソン据付法線が基準値の1/5以内と精度が高く、上部工のひび割れも無く出来ばえも優れ高く評価できます。

○工事名：稚内港北防波護岸改良その他工事

発注者：稚内開発建設部

施工者：藤建設(株)

技術者：



山下 義明氏



【表彰理由】

北防波堤ドームの施工は、外海に面した波浪の影響を直接受ける曲面部の修復のため、軌条を敷設し横行可能な吊り折り畳み式の作業足場を採用、施工面にフィットさせつつ高波浪時の作業待避を容易にし、施工の効率化と安全性向上を図りました。また、曲面かつ起伏の激しいハツリ面をレーザー測定器により精密測定し施工管理に当たるとともに、ハツリ作業にあたっては排水廃材を同時吸引・場外回収可能な半自動ウォータージェット表面処理ハツリ機を採用し採介藻漁場である周辺海域の環境に配慮、併せて作業負荷を低減させました。さらに、断面修復後のマクロセル腐食を抑制するため、新旧境界面の防錆材施工に留意するなど、随所に創意工夫が見られ、安全に遅滞なく良好な品質の目的物を完成させました。一方、ロシア人研修生の現場見学、地元小学生の体験学習等に協力、積極的に地域貢献に努めました。

【各開発建設部長表彰】

○工事名：新千歳空港1号沢函渠外耐震補強工事

発注者：札幌開発建設部

施工者：勇建設(株)

技術者：荒木 直樹氏

○工事名：函館港七重浜部臨港道路建設工事

発注者：函館開発建設部

施工者：工藤・岩倉経常JV

技術者：小長谷 正男氏(工藤組)、
佐藤 雅利氏(岩倉建設)

○工事名：苫小牧港西工区岸壁西-9m
改良鋼管矢板打設その他工事

発注者：室蘭開発建設部

施工者：岩倉建設(株)

技術者：西亦 恵介氏

○工事名：登別漁港-3.0m岸壁改良工事

発注者：室蘭開発建設部

施工者：(株)山口工業所

○工事名：釧路港-14m岸壁B部本体工事

発注者：釧路開発建設部

施工者：濱谷・山田・真壁経常JV

技術者：伊藤 隆氏(濱谷建設)、
矢元 正宏氏(山田組)、
新井田 貴久氏(真壁建設)

○工事名：紋別港南波除堤建設工事

発注者：網走開発建設部

施工者：(株)藤共工業

技術者：熊坂 哲男氏

平成29年度 北海道開発局 港湾空港関係功労者表彰

北海道開発局は7月21日、札幌第1合同庁舎で本年度の「港湾空港関係功労者表彰」及び「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」の表彰式を行い、真田仁港湾空港部長が、受賞者一人ひとりに表彰状を授与した。

この表彰は、港湾空港整備事業の推進を目的として、港湾空港関係の業務等に関し、功労のあった方々を対象に実施している。

今年度の功労者表彰は、釧石工業株式会社（釧路市）代表取締役社長 西村智久氏、豊浦建設工業株式会社（豊浦町）代表取締役社長 金丸孝氏と前えりも町長の岩本溥叙氏が受賞した。また、海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰は、広尾町ふるさとクリーン作戦実行委員会が受賞した。

真田部長は表彰状授与後のあいさつで、「港湾空港事業は地域産業や生活を支える重要なインフラ。食料供給基地である本道にとっては国策を担うもの」と強調し、受賞者のこれまでの功績に感謝するとともに、今後のさらなる活躍に期待を寄せた。



北海道港湾空港建設協会推薦



釧石工業株式会社
代表取締役
西村 智久 氏
生年月 昭和35年 9 月

略 歴

昭和60年 4 月	釧石工業株式会社	入社
平成 4 年 5 月	釧石工業株式会社	常務取締役
平成 9 年 9 月	釧石工業株式会社	代表取締役
	現在に至る	

北海道港湾空港建設協会推薦



豊浦建設工業株式会社
代表取締役
金丸 孝 氏
生年月 昭和25年 8 月

略 歴

昭和46年 4 月	豊浦建設工業株式会社	入社
昭和59年 4 月	豊浦建設工業株式会社	専務取締役
平成 9 年 9 月	豊浦建設工業株式会社	代表取締役
	現在に至る	

平成29年度 (公社)日本港湾協会会長賞表彰港湾功労者賞

北海道港湾協会推薦 (順不同)

永年にわたり、港湾の発展に尽くされた功績顕著な方々に贈られる港湾功労者賞の表彰が行われた。平成29年5月24日神戸ポートピアホテル ポートピアホールで開催された(公社)港湾協会の第90回定時総会に先立ち、北海道港湾協会及び(一社)日本海上起重技術協会の推薦により道内から6名の方が表彰されました。受賞されました皆様には、心からお慶び申し上げます。



北原 繁志 氏
生年月 昭和31年1月
(一社)寒地港湾技術研究センター
第2調査研究部長

略 歴

昭和53年 北海道開発局
平成20年 釧路開発建設部 根室港湾事務所長
平成24年 釧路開発建設部 技術管理官
平成26年 (一社)寒地港湾技術研究センター
第2調査研究部長
現在に至る



折原 靖夫 氏
生年月 昭和30年7月
真壁建設(株) 常務取締役

略 歴

昭和49年 北海道開発局
平成25年 留萌開発建設部 次長
平成27年 (一財)港湾空港総合技術センター
北海道支部 支部長
平成28年 真壁建設(株) 常務取締役
現在に至る



高田 稔年 氏
生年月 昭和30年10月
あおみ建設(株)北海道支店 次長

略 歴

昭和49年 北海道開発局
平成25年 室蘭開発建設部 苫小牧港湾事務所副所長
平成28年 あおみ建設(株) 北海道支店次長
現在に至る



大前 豊 氏
生年月 昭和30年11月
五洋建設(株)札幌支店 調査役

略 歴

昭和49年 北海道開発局
平成26年 小樽開発建設部 小樽港湾事務所長
平成28年 五洋建設(株)札幌支店 調査役
現在に至る

(一社)日本海上起重技術協会推薦



鈴木 勝晴 氏
生年月 昭和30年12月
(一財)港湾空港総合技術センター
北海道支部 事業第一部調査役

略 歴

昭和49年 北海道開発局
平成25年 函館開発建設部 函館港湾事務所副所長
平成28年 (一財)港湾空港総合技術センター
北海道支部 事業第一部調査役
現在に至る



川村 求 氏
生年月 昭和29年10月
(株)富士サルベージ 技術顧問

略 歴

昭和49年 北海道開発局
平成26年 小樽開発建設部 小樽港湾事務所副所長
平成28年 (株)富士サルベージ 技術顧問
現在に至る

平成29年度 (公社)日本港湾建設協会連合会会長賞表彰 港湾功労者賞

北海道港湾空港建設協会から9氏が受賞

経営の合理化、工費の適正化、技術の向上、作業の効率化、従業員の労務・厚生改善等で協会の発展に尽くした功績を顕著として、平成29年5月10日東京都内の明治記念館で開催された日本港湾空港建設協会連合会第34回通常総会において、当協会から次の9氏が会長表彰を受賞されました。受賞されました皆様には、心からお慶び申し上げます。

代表者表彰



宮原 文憲 氏
生年月 昭和27年2月
(株)宮原組 代表取締役

略 歴

昭和52年 (株)宮原組 工事部長
昭和58年 同社 代表取締役 副社長
平成元年 同社 代表取締役
現在に至る



山口 志郎 氏
生年月 昭和31年2月
(株)山口工業所 代表取締役社長

略 歴

昭和55年 (株)山口工業所 入社
平成3年 同社 取締役
平成12年 同社 代表取締役専務
平成13年 同社 代表取締役社長
現在に至る

従業員表彰 (順不同)



斉藤 健一 氏
生年月 昭和30年1月
近藤工業(株) 取締役営業部長

略 歴

昭和48年 近藤工業(株) 入社
平成13年 同社 土木部長
平成16年 同社 取締役土木部長
平成18年 同社 取締役営業部長
現在に至る



湯谷 博 氏
生年月 昭和30年12月
白鳥建設工業(株) 顧問

略 歴

昭和60年 白鳥建設工業(株) 入社
平成18年 同社 常務取締役
平成22年 同社 専務取締役
平成28年 同社 顧問
現在に至る



堀 雅人 氏
生年月 昭和31年12月
堀松建設工業(株) 常務取締役

略 歴

昭和54年 堀松建設工業(株) 入社
平成10年 同社 工事管理指導
平成17年 同社 取締役土木部長
平成21年 同社 常務取締役
現在に至る



上西 邦弘 氏
生年月 昭和33年 8 月
釧石工業(株) 執行役員工事部長

略 歴

昭和52年 釧石工業(株) 入社
平成18年 同社 工事部次長
平成24年 同社 執行役員工事副部長
平成28年 同社 執行役員工事部長
現在に至る



飯田 傑 氏
生年月 昭和33年 9 月
機械開発北旺(株) 営業部次長

略 歴

昭和58年 北海道機械開発(株) 入社
平成14年 同社 工事部工事担当課長
平成20年 機械開発北旺(株) 営業部営業課長
平成25年 同社 営業部次長
現在に至る



奥瀬 智也 氏
生年月 昭和36年10月
村井建設(株)土木舗装部
土木課次長

略 歴

昭和55年 村井建設(株) 入社
平成19年 同社 土木舗装部土木課 係長
平成25年 同社 土木舗装部土木課 課長
平成27年 同社 土木舗装部土木課 次長
現在に至る

協会特別功労者表彰



中村 弘之 氏
生年月 昭和20年 8 月
(株)西村組 執行役員常務
札幌支店長

略 歴

昭和39年 北海道開発局
平成15年 稚内開発建設部 技術管理官
平成16年 (一財) 港湾空港総合技術センター
北海道支部
平成20年 (株)西村組 入社 執行役員常務 札幌支店長
現在に至る

我が社の安全衛生管理

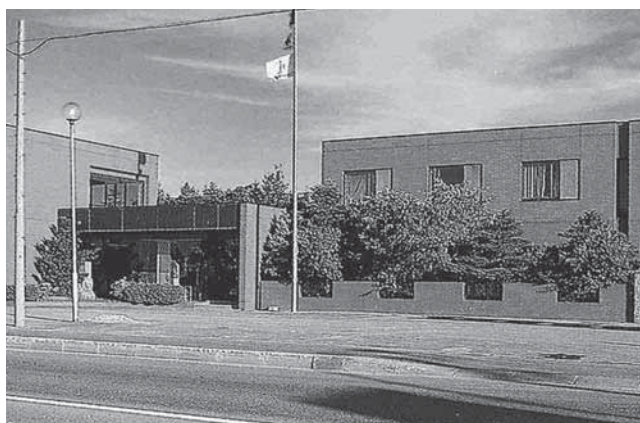
丹羽建設株式会社 総務部 佐々木 秀則



1. はじめに



当社の創業は大正6年（法人設立昭和29年）であり、本年は創業より百周年の記念すべき年を迎え、今後も全従業員をあげてさらなる技術の向上とともに安全第一で事業を推進すべく精進努力していく決意をしています。



本社社屋

昭和30年をはじめとして港湾・漁港建設事業に進出し、昭和48年に50t吊クレーン船を、また、昭和53年にスパット式浚渫船を新造。昭和60年に90t吊起重機船、平成8年に160t吊起重機船を新造し工事に対応してきました。その他道路・農業・水産及び国道、道道の道路維持除雪業務等幅広く事業を展開し地域の発展に寄与しております。



2. 安全衛生基本方針



当社は、「安全衛生管理体制を確立し、全社一丸となり安全衛生管理活動の推進と労働災害の撲滅の徹底を図り、災害のない明るい職場を形成する。」を基本方針とし、それをもとに年度ごとの達成目標を定めるとともに、毎年度当初の4月には安全スローガン及び環境スローガンを全従業員より募集し、優秀な作品を当年度のスローガンとして全現場に掲示し安全作業の推進に役立てています。



3. 安全衛生管理計画



前年度の現場パトロール結果や安全衛生委員会での反省をもとに毎年度当初に安全衛生管理基本計画を策定し、春に全社をあげて行われる安全大会において新スローガン及び安全衛生基本計画の趣旨説明を行い、全従業員及び協力会社の皆様のご理解をいただき安全作業を推進しています。



4. 安全衛生活動



①安全大会

毎年4月に、全従業員及び協力会社の参加のもと全社の安全大会を開催し、丹羽社長の訓示、当該年度の安全衛生管理基本計画及び品質・環境方針の趣旨説明、また、稚内労働基準監督署・稚内警察署交通課・稚内海上保管部より安全講話をいただき安全作業への意識の醸成を図っています。



安全大会

②店社安全パトロール

安全衛生管理基本計画の年度計画に基づき、毎月1回安全衛生委員会による店社安全パトロールを実施。7月の全国安全週間、10月の全国労働衛生週間には、社長以下役員による現場パトロールを実施し、それらを通じて、安全管理及び作



店社安全パトロール

業環境を点検して、改善点や充実点を抽出し全現場に水平展開して全ての現場担当者の安全衛生管理活動のスパイラルアップにつなげています。

③技術職員研修会

年度初めの事業訓示式（入社式）にあわせて技術職員による研修会を実施。前年度において各職員が外部の研修会に参加し



技術職員研修会

て聴講した新たな技術、法令等や安全管理に関する新たな知識や法令を発表しあって、技術力はもとより安全衛生管理活動の向上に努めています。

④交通安全

全社員がセーフティラリーに参加し、無事故無違反に向けて意識の向上に努めています。また新たな取り組みとして社有車にドライブレコーダーを設置し、交通事故の未然防止やドライバー各々の安全運転に資することを期待しています。

5. 作業所安全衛生管理活動

各作業所では、会社の安全衛生基本方針をもとに作業所ごとの特性を考慮した安全衛生基本方針を策定し、リスクアセスメントによる各作業ごとの危険有害要因を抽出。毎日の朝礼において当日の作業における危険予知活動に反映させています。また、周辺環境に配慮した施工を心がけ特に港湾漁港工事における海洋の汚濁防止対策に努めています。

当社は、厚生労働省が進めている「あんぜんプロジェクト」に参加登録し、労働災害のない現場を目指しています。労働衛生面では従業員のメンタルヘルスチェック体制を整備し現場を含む職場環境の改善に役立てています。



6. その他の活動



毎年海の日にあわせて現場漁港内の除草清掃活動を実施しております。また、地元の頓別漁港においては海明け時期の漁港内に張った氷割り作業を行い春先の漁船の下架作業に協力しており地元漁業者に喜ばれております。今年、初



頓別漁港氷割り



小学校グラウンド整備

めでの取り組みとして地元小学校の運動会時期を控えた5月にグラウンドの雑草や石を取り除き安全な環境の整備を実施し、喜んでいただきました。



7. むすびに



近年、若者の建設業従事者が減少している現状がありますが、その大きな要因として建設業が他の産業に比較して就労環境の悪さと危険度の高さがあるとの認識がなされております。今後少子高齢化がますます進むことが予想されますが、地域の安全安心に大きく貢献している建設業が衰退することは地域の衰退に直結すると懸念しております。

その意味で、当社においても全従業員の働き方改革の推進及び現場の安全作業を徹底し、就労環境の改善及び労働災害の撲滅を図ることは大変に大きな意義があると認識しております。

今後もさらに安全衛生管理活動の推進を図り地域社会へ貢献していく企業を目指していきます。

自航式多目的船

AUGUST EXPLORERを就航

東洋建設(株)

1. はじめに

東洋建設株式会社（東京都江東区 社長：武澤恭司）は、平成29年に創業88年を迎えるにあたり、平成28年の8月に自航式多目的船「AUGUST EXPLORER」（4,831総トン）を就航させた。

2. 開発の経緯

日本における安定した自前資源の開発は、喫緊の課題となっている。当社は、港湾土木だけでなく海洋におけるマリンコントラクターとしての存在感をしめすべく、今後海洋開発等が望まれる排他的経済水域での活用を目指して、自航式多目的船を建造した。

開発にあたり、次の様なテーマ設定を行った。

①近海での作業が可能である

通常の港湾区域とは違い、近海での作業を踏まえ、5つのスラスタを搭載した自航船とした。

②多目的な運用が出来る

港湾工事だけでなく、海洋調査、災害対応など多目的な運用を目指した。

3. 主要諸元

以下に、本船の主要諸元をしめす。

船体全長：89.9m

船体幅：27.0m

船体深さ：5.0m

最大積載荷重：3,500t

最大搭載人数：52名

総トン数：4,831t

航行区域：近海区域（非国際）

航海速度：10ノット

推進装置：全旋回式1,471kW×2基

バウスラスタ：昇降式全旋回式590kW×2基

補助スラスタ：トンネル式330kW×1基

クレーン：旋回式500tクレーン

スパッド：□1,500mm L=33m×2本

海水淡水化装置：16m³・4m³/日（清水・飲料水）

船籍港：大阪府大阪市

造船所：サノヤス造船(株)水島製造所



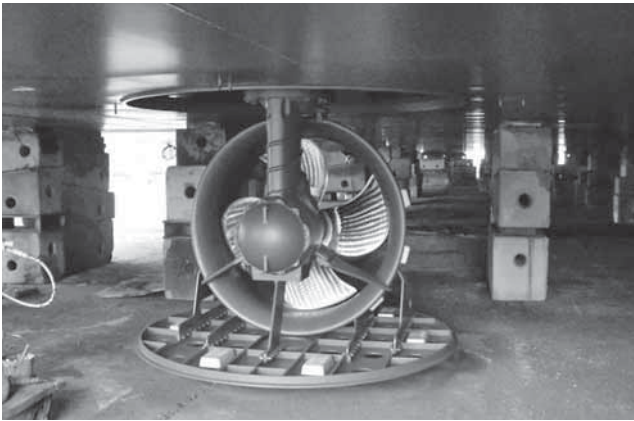
AUGUST EXPLORER全景

4. 本船の特徴

1) 定点保持機能 (DPS)

前方3基 (トンネル+昇降式)、後方2基 (推進) の計5基のスラスタを一元的に管理するシステムにより、定点保持が容易に行える。

その能力は、潮流2ノット+風速15mの条件下で、全方向に定点保持が可能となっている。



昇降式スラスタ

2) 快適な船内施設

本船の最大搭載人員は、乗組員を含め52名であり、作業従事者、調査関係者など多人数の乗船を可能としている。それら、乗船者に対する設備も充実させており、TV会議室、事務室、娯楽室、医務室兼多目的室、スポーツルーム、女性に配慮したトイレ・シャワー付きの居室といった施設も備えている。

また、操舵室後方は執務スペースを設け、調査業務におけるデータ解析や作業指示などが行える。



TV会議室

5. 活用先

従来の港湾工事だけでなく、様々な工事・業務を考えている。500t吊りのクレーンと925㎡の大型デッキを利用し、資源調査・開発での母船や、洋上風力発電における補助船、外洋での魚礁設置等での活用である。

また、1,000klの燃料タンクや海水炭水化装置 (飲料水製造能力4 m³/日)、大型の食料貯蔵庫など3ヶ月の長期航海にも対応出来る仕様となっており、それらの機能を生かし、大規模災害時の支援船としての活躍も期待される。

6. おわりに

港湾土木における作業船環境は決して明るいものとはいえない。しかし、日本の海洋土木技術を継承していく上で、このような新造船を建造し、かつ作業に活かしていくことが大切であると考えます。

本稿により、AUGUST EXPLORERに少しでも興味を持っていただければ幸いです。



魚礁設置



洋上風力発電に活用

私の 趣味

『— 学生の頃の夢を おいかけて —』



株式会社南組
南 修

趣味と言うほどのものは持ち合わせていないので、編集者の言葉に甘えて、当社の現在開発している港湾の補修方法「永久型枠」と、用水路の補修用の自動機械「左官アシスト」と、当社のエフモル（繊維入りモルタル）の「耐寒用早強モルタル」について述べたいと思います。

私は学生の頃より、自分は何か製造して形になる商品を作り販売したいと思っていましたが、それは何であるかは当時わからないまま過ごしていました。大学卒業後は商社に入り色々な機械の販売、工場のプラントを手がける仕事に就きました。その後、様似町に戻り木製品の加工品を作る工場を手がけました。その当時の機械に対する知識、また木製品の製造で得た技術・経験が現在の開発に大変役に立っています。

13年前に突然社長になりましたが、元々土建屋に生まれ父や兄達を見ていたので、それほど違和感もなく引き受けました。ただ、この建設業界はランク別・実績・また地域別などがあり、他の業界より入ってくると誠に窮屈な業界であると考え、その中で生きていかなければならないということ、今後新設より補強補修という時代の流れの中で、何とか業績を上げることは出来ないものかと漠然とした思いでありました。

ある時、当社の工事現場を見ていたとき、1.5mの拡幅（腹付け）をみていて港が小さかった面もあり、こんな港に1.5mも拡幅したら利用するのが不便になると漠然と考えていました。でも、その時はこれを何とかしようという気持ちは全くありませんでした。

そんな折、開発局の港湾事務所で所長との話の中で、ケーソンに穴が空いているとか港の補修の話をし、所長室を出てもまもなく車に乗る20秒ほどの時間に突然「自在型枠」のイメージが頭に浮かびました。それは高校生の頃、寮生活の中で下級生の一人がおもしろいグッズを持っており、針がいっぱい付いているもので、顔に押しつけるとその顔に合わせて針が凹凸になる遊びグッズを思い出しました。これにヒントを得て当社の自在複枠が出来ました。

その後、会社で議論を重ねていくうちに永久型枠をどのようにして固定するかということになり、私が突然モルタルでボルト・ナットを作ろうと言いだし、社員も一瞬、驚いたようですが社員も相当乗る気になっていたようで、今考えるとすぐに来ると勘違いしていたようです。ボルトは直ぐに型枠さえ来ればOKなのですが、ナットは当初簡単に考えていた方法が失敗して、それからどうするこうするで、ナットを作るだけで1年半もの時間が掛かってしま

いました。そんな中、今考えると笑い話になるような、おもしろい色々な案が出ましたが何とかナットを作ることに成功しました。また、自在型枠はモルタルが漏れるのではないかという心配があり、何度も実験を重ねた結果、漏れないということが明らかになりましたが、それでもどんな状態でも心配ないのかということになれば一抹の不安は社員も持っていたようで、何とかしなければならぬと考えていた折、出張先で話をしていた隣の部屋のドアの隙間から、わずかに光が漏れているのを見て瞬間的にこれだ、モルタル注入前に自在型枠の中に蛍光灯を入れると、光が漏れている所からモルタルが漏れるのを発見でき対処することが出来るということに気がつき、自在型枠の完成度が増しました。その後町内の冬島漁港で4年前に試験施工を行い、2年前に根室市温根元の港で試験施工を行いました。温根元は来春で3年目を迎えることになっていますが、現在のところ順調な経過のようです。また、数力所の港からも引き合いがあり、真剣に検討されています。



次は「左官アシスト」の件ですが、数年前より繊維入りモルタルを開発してきましたが、これは農業用水路を主に考えて開発した商品です。昨年8月末に農業用水路1,500kmを補修するという農水省の方針が閣議決定し、来年度より全国で仕事が出るよう

ですが、当社協力会社の左官部門の平均年齢を調べたところ65歳位であり、数年で壊滅状態になることが明らかで、何とか左官の自動機械化または、ロボット化しなければと考えていましたが、当社ではロボット化は無理と考え、機械化の道はないのかと考えていました。この数年来、私の頭の中ではこうしたら、ああしたらと色々な案がグルグル回っていましたが、いくら考えても決定的にならないため、ともかく考えていることを試験してみようということになりました。しかし今本当のことを言うと私自身もちろん社員は口には出しませんが、左官作業の、自動機械化は相当難しいと考えていたことは明らかでしたが、私もやせ我慢でもとかくやってみなければわからないというスタイルで取り組みました。それでも当社の工場長のアイデア等、また社員も段々気持ちの入り込みもあり、考えていた何倍のスピードで完成したのが、昨年6月の下旬です。その後左官不足という業界の事情もあり、また今後10年間で1,500kmの農業用水路補修の発注も決まっていることから、農業関係者の協力もあり、北海道では当別土地改良区が管理する農業用水路、関東農政局の協力を得て若旅導水幹線水路で今年3月に巾3.7m高さ2.2mの用水路を関東農政局、東北農政局、近隣の土地改良区、施工業者約45名位の人々が見学に集まり試験施工を行いました。また10月には近畿農政局でも話が進んでおり、機械の開発より全国的試験施工まで約1年という超スピードで進んでおります。これは左官不足と1,500kmの発注予定という時代の風に乗ったものだと考えています。

3番目は、数年前より開発していた繊維入りモルタルの次に、どのような商品を開発するかと検討会を開かせ議論の結果、耐寒モルタルを作ることになりましたとの報告を受けましたが、まだその当時、当社の商品の数も少なくモルタルの開発力もそれほ

ど無かったため、他メーカーと同じような早強タイプを開発しましたが、これは最初から他メーカーと比較して特色もなく、売り出しても無理だと判断し、他メーカーにない明確な特色を持った商品を作ろうということになり、他メーカーの早強タイプは可使時間が20分位しかないという欠点を持っているが、当社は施工可能時間を60分～90分位という製品を目指しました。約1年半後、作業可能時間60分～90分の商品を作り、開発の過程で様々な気温設定を繰り返し、どのように変化するか半年かけ実験を行い、丸2年かけ耐寒早強タイプの商品を完成させPRしている段階ですが、こちらが予想していた以上の良い反応があり今後に期待ができそうです。

ここ数年、永久型枠工法・左官アシスト・新しい型の耐寒早強タイプ等を手がけてきましたが、その間に多くの人に協力をしてもらいました。ただ新しいことに対し全ての人が素直に認めてくれるかというと、約10%～20%位の方は積極的に対応してくれますが、反対に10%～20%位の方は無関心・否定的な考え方、後は皆が良いと言うなら自分も反対しないという様子で人それぞれだなと感じております。ここ数年の新しい工法、自動機械化、新しいモルタルの開発を行うにあたっては、初めから相当時間や費用も要すると考えていましたが、実際行っていくと開発とは耐えることだなと熟々思います。それでも営業の成果も段々出てきて皆さんに認められるようになり、前記のとおり永久型枠も数ヶ所の港で真剣に検討され、左官アシストも来年より全国展開も出来そうな状態にもなり、耐寒早強タイプのモルタルも期待出来そうです。

よく社員には、自分たちで自ら考え発想し、新しい工法、新しい商品を作りだし、そしてそれが世の中で役に立っていく。特に我々の仕事はインフラ整備という公共性の高い分野であるので、ここに自分



たちの知恵と努力の結果を世に示すことができたら、これ以上の幸せはないとよく話しますが、初め社員は受注請負業に長くいるせいか、自ら考え新しい物を作り出すということに慣れていないせいか、私の話をピンとこない者もありましたが、段々日を追うごとに、そのおもしろさが理解出来るようになってきました。

昨今、公共事業というと税金の無駄使いなどと二言目にはバカなことを言う一部マスコミ・政党もありますが、我々は社会になくはならないインフラ整備という高い使命感をもって新しい工法、新しい技術、新しい商品を開発して、一歩前へという姿勢で社員はもとより業界の皆さんと共に勇気堂々の道を歩みたいと思っています。

イベント

釧路川総合水防演習 初の広域連携防災訓練を実施

開発局や道、釧路・根室管内13市町村の主催による29年度釧路川総合水防演習・広域連携防災訓練が6月17日、標茶町の釧路川左岸ほかで開かれた。洪水や地震・津波を想定した訓練で、約2,400人が参加。うち、地震・津波の訓練では釧路港東港区耐震強化岸壁をサテライト会場とし、道内初の試みとなる、河川・港湾事業者が広域的に連携した訓練を実施した。

演習は第1部の洪水編と第2部の地震・津波編で構成。第2部の訓練では、釧路沖でマグニチュード8.2の地震

が起き、震度6強を観測。10mの津波発生を想定した。道東と道央を結ぶ道路寸断の可能性もあることから釧路港からの支援も想定し、初の試みとしてサテライト会場と連動した訓練を実施した。

サテライト会場では、船による漂流者捜索・救助訓練、港湾巡視訓練、津波により流出した障害物を海上起重機船により撤去作業を行う航路啓開訓練、船で運ばれた緊急支援物資の輸送訓練などを本番さながらに実施した。

(記事は北海道通信から抜粋)



開会式整列状況



被災状況調査(防災エキスパート)

平成29年度 第1回 小樽港フィールド・ラーニング開催

小樽開発建設部は平成29年7月21日（金）、同部庁舎で本年度第1回目となる小樽港フィールド・ラーニングを開催した。開建職員、小樽市や民間業者などから約70人が参加。日本データサービス(株)顧問の関口 信一郎氏が講師となり「廣井 勇の生涯と業績」を演題に土木技術の歴史を解説した。

小樽港フィールド・ラーニングは、初代小樽築港事務所所長で、工学博士の廣井 勇博士の考え方を学ぶ機会として平成24年度から始まった。同開建が港湾整備の計画・調査・設計・施工を考える勉強会として実施している。

昨年度から関口氏が講師を務め、「港湾の歴史～廣井勇博士の生涯」と題した全4回の講演を予定しており、

今回は3回目。関口氏は、廣井 勇に関する本を出版するなど廣井博士の研究者として知られている。

前回は「物資輸送と水運・世界を変えた道路と鉄道」と題し、物資輸送と水運や世界を変えた道路と鉄道技術を、世界や日本の歴史から紹介した。

今回は「廣井 勇の生涯と業績」をテーマに講演。昨年の講演でふれたインフラの役割を踏まえ、小樽港築港に至るまでの博士の人生や仕事観などを振り返った。

最後となる4回目の講演は、関口氏が歴史の中で廣井博士の果たした役割と影響について解説する。

（記事は北海道通信から抜粋して掲載しました。
写真提供は、北海道開発局 小樽開発建設部）



講演する「関口 信一郎」顧問



熱心に講演に聞き入る参加者

釧路みなとコンサート

釧路みなとコンサートは、1999年釧路港開港100周年を記念し、くしろ港まつり事業の一環として、釧路の短い夏を自由な音楽でパフォーマンスを楽しめる場の提供を、地元建設業者が実行委員会を立ち上げ、第1回のコンサートを開催しました。

第19回目の今年も、くしろ港まつり2日目の8月5日（土）に、釧路市観光国際交流センターで“しらない

音色に 出会いたい”をテーマに大勢の釧路市民、観光客と共に楽しみました。

出演は順に、「釧路市立光陽小学校金管同好会」、「印心合唱団（台湾からのゲスト）」、「cosmie（コズミ）」、「hi-fi lo-fi」、「入船一郎とゴールドライン」、「HOBOPAND元祖フォーク小僧バージョン」の6グループでした。



委員長挨拶



釧路市立光陽小学校金管同好会の演奏

大型客船等寄港

白老港に初寄港 「ぱしふいっくびいなす」

日本クルーズ客船（大阪市）の大型客船「ぱしふいっくびいなす」（定員620人、総トン数2万6594ト）が5月11日、白老港第3商港区に初寄港した。巨大な白い船体の客船が接岸した岸壁では、町によるセレモニーや町民対象の船内見学が行われ、歓迎ムードに沸いた。

町によると、白老港への大型客船の寄港は初めて。午前7時半頃、船が姿を現すと、地元愛好家がパラグライダー飛行で入港を歓迎。小雨交じりの空模様の中、岸壁で歓迎セレモニーが行われ、乗客らにアイヌ民族の伝統楽器ムックリの演奏などを披露した。

セレモニーで港湾管理者の戸田安彦町長は「寄港を心

より歓迎したい。北海道を満喫してもらいたい」と挨拶し、由良和久船長は「心温まる歓迎に感謝。春の日本一周クルーズは毎年行っており、いずれかの機会でもた計画したい」と述べた。

セレモニーの後、乗客らはアイヌ民族博物館でアイヌ文化を体験したり、支笏湖や登別温泉などを巡ったりと、道内観光を満喫。夕刻の出航前、同博物館職員らが船旅の安全を祈るアイヌ民族の伝統儀式を執り行い、岸壁に集まった約300人の町民らに見守られながら、午後5時ごろ、クルーズ船は白老港を後にした。

（記事は苫小牧民報より抜粋）



白老港に寄港したクルーズ船「ぱしふいっくびいなす」

（写真提供：苫小牧港湾事務所）

室蘭港に「飛鳥Ⅱ」寄港 初めてとなる「豪華客船のクルーズとヘリコプターの 遊覧飛行の組合せ」

豪華客船のクルーズとヘリコプターの遊覧飛行を組み合わせ、室蘭港で初めて6月12日に行われた「飛鳥Ⅱ」(5万142トンの)の乗客向けツアーは「北海道の緑が印象的だった」などと好評だった。富裕層の利用が期待できることから、今回のヘリを運航した北海道航空は、工場夜景など室蘭港発着のクルーズ客向け遊覧ツアーの拡大に意欲を示す。

ヘリの発着地は、飛鳥Ⅱの停泊地に隣接した旧フェリー埠頭駐車場。道内港では珍しく、遊覧飛行のヘリ発着地として使える広さがあり、白羽の矢が立った。

飛行時間は洞爺湖方面への往復で約30分。最大6便を想定した運行回数は希望者が少なく2便にとどまったが、利用した7人は満足した様子。

飛鳥Ⅱの運行会社で、寄港地での新しいツアーを検討

していた郵船クルーズ(横浜)側に対し、北海道航空側は当初、室蘭港の夜景ヘリツアーを提案した。同航空は「白鳥大橋のライトアップや工場夜景を見てもらいたかった。今回は無理だったが、また提案したい」(営業部)という。市港湾部も「ポートセールスにつながる」とPR材料の一つになると期待する。

今回の飛鳥Ⅱの航海は、神戸発横浜行き日本一周クルーズの途中で、乗客約750人を乗せ、室蘭港には宮城県石巻から11日夕方に到着した。入港に合わせ、西胆振のご当地映画「モルセラニの霧の中」第2部の撮影も行われ、市民は太鼓や合唱で歓迎した。船は室蘭港で1泊し、12日夕方に釧路へ向かった。

(記事は北海道新聞から抜粋)



洞爺湖方面への遊覧ヘリコプターに乗り込む飛鳥Ⅱの乗客たち

(写真提供：室蘭港湾事務所)

小樽港に今年初となるクルーズ客船「コスタ・ビクトリア」が寄港

小樽港での今年初となるクルーズ客船は、イタリア船籍の「コスタ・ビクトリア」(75,166t)。韓国からのチャーター船で、韓国人ら約1,800人を乗せ、平成29年5月6日に韓国を出港した後、ロシア極東ウラジオストクとサハリン・コルサコフを経由し、10日午前9時に小樽港に入港した。

客船が勝納ふ頭に接岸すると、小樽商大の学生4人が客船のバルコニーにいた乗客にマイクを使って「小樽に来てくれてありがとう。地図を作りました。無料なので手に取ってください」などと韓国語であいさつ。上陸した乗客に韓国語の観光案内地図を渡し、小樽観光をPRした。地図は同大の学生が昨年、クルーズ客船の乗客向けに製作した。

妻と訪れた朴熙善^{パクヒソン}さん(77)は「今回の旅は子供から

のプレゼント。小樽の温泉に行きたい」と話した。地図の製作にも携わった同大大学院修士1年の女子学生は「貴重な経験になりました。韓国人観光客にあったら案内をしたい」と話していた。

同客船は11日に秋田に寄港した後、13日に韓国に戻る。

今年のクルーズ客船は、今回も含めて小樽港に計26回寄港する予定。昨年は25回寄港し、道内では函館港に次いで2番目に多かった。

小樽市はクルーズ客船の誘致に向け、秋に東京で小樽港をPRする事業を予定。小樽市港湾室は「余市町や仁木町などの北後志の観光協会とも連携して、特産品や観光地としての魅力を広めたい」と話している。

(記事は北海道新聞から抜粋)



小樽港に寄港したクルーズ客船コスタ・ビクトリア



(写真提供：北海道開発局 小樽開発建設部)

苫小牧港に 「北極海航路の砕氷船」寄港

アジアと欧州を結ぶ最短ルート「北極海航路」を航行する貨物船が6月26日苫小牧港西港区に入港した。開発局によると、同航路を通る貨物船の道内寄港は初めて。地元関係者による歓迎式典が船内で行われ、同航路のハブ（中継拠点）港化を目指す苫小牧港の利便性をアピールした。

入港したのは、オランダ船籍の耐氷船「ビッグロールビューフォート」(23,134t)。

ロシア・ヤマル半島で進む液化天然ガス（LNG）施設建設のため、鉄骨や配管で組み立てた構造物を運ぶ船

として3月に完成した。今回が初航海で、5月に中国・山東省の青島港を出港、韓国経由で苫小牧港に入港し、同日夕に苫小牧港を出港し、目的地のヤマル半島のサベッタ港には7月15日に到着する予定。

北極海は近年の地球温暖化で海水面積がほぼ半減し、夏には砕氷船を伴った耐氷船を使えば航行が可能になった。アジア～欧州間で主流だった南回りのスエズ運河経由より航行距離が約4割短くてすむ。今回はロシア海域で合流する砕氷船との時間調整で、苫小牧港に寄港した。

（記事は北海道新聞から抜粋）



苫小牧港に寄港した北極海航路の耐氷船「ビッグロールビューフォート」

（写真提供：苫小牧港湾事務所）

各港で舟漕ぎ大会、 ボートレース開催

釧路港舟漕ぎ大会

第70回くしろ港みなとまつり2日目の8月5日(土)、第13回釧路港舟漕ぎ大会が「“力を結集”国際バルク戦略港湾」と銘打って開催された。

釧路川の幣舞橋と久寿橋間の特設会場往復200メートルを漕ぎ手6名、声かけ1名、旗持ち1名の8名が乗り込んだ舵なし舟のタイムレース。

大会には、一般の部65チーム、女性の部20チームの85チームが参加、午前8時10分からの開会式、8時40分の

来賓者一同によるピストル宣言で一般の部の予選競技がスタートした。

天候は薄曇りで、気温は20度前後と競技には好条件のもと、予選、準決勝、決勝までの全32レースに熱戦が繰り広げられた。左右河川敷からは、応援団、観客が声を枯らして声援を送っていた。一般の部の優勝は「J&HI」が王座奪還を果たし、女子の部は「漕ぎまくり隊」が4連覇を達成した。



一般の部の技と力



女子の部の華麗なオールさばき

ねむろ港まつり舟こぎレース

第59回ねむろ港まつりが7月15日、16日に開催された。16日(日)に恒例の舟こぎレースが根室港特設会場で行われ、一般の部に17チーム、女性の部に6チームの合わせて23チームが参加した。

こぎ手6名、声かけ、旗持ちの8名がスワンボートに乗り込み、往復200メートルの距離をタイムで争うレー

ス。予選、準決勝、決勝と家族や職場の仲間から大きな声援を受け熱戦を繰り広げた。

レースの結果、一般の部は「風林火山チーム」、女性の部は「アフロズチーム」が優勝、共に4連覇を成し遂げ圧倒的な強さを見せつけた。



熱戦を繰り広げる参加チーム



大きな声援を送る市民

苫小牧港はすかっぱボートレース

第9回苫小牧港はすかっぱボートレース（実行委員長・宮崎英樹苫小牧港建設協会長）が8月5日（土）、苫小牧港西港区北ふ頭のキラキラ公園で開催され、市内の企業などから20チームが参加し、1周220メートル（予選は150メートル）を予選はタイム、決勝はトーナメント方式の勝ち抜きで競った。



はすかっぱボートレースの様子



必死に漕ぐチームメート



親子連れで賑わう
みなとフェスティバル



室蘭開発建設部苫小牧港湾事務所出展の「みなとパネル展」で活躍するべいくりん

開会に当たり、宮崎実行委員長が「朝方雨が降ったが無事開催できた。ボートレースを十分楽しんでほしい」とあいさつがあり、来賓の岩倉博文市長からも「優勝目指して頑張してほしい」とエールが贈られた。

競技中は、向かい風や波に苦戦しながらも力を合わせボートを漕ぐ選手たちに市民から大きな声援が送られた。優勝チームは「準基のヒミツ」、準優勝は「カチカチ山EX」となった。

ボートレース会場のキラキラ公園では、第19回みなとフェスティバルが開催され、フリーマーケットや焼き鳥・焼きそば、ホッキカレーなどの模擬店が軒を連ねるほか、

室蘭開発建設部苫小牧港湾事務所からは苫小牧港の歴史などを紹介するパネルも出展され「ぼーとん、べいくりん」が親子連れと写真を撮るなど、多くの市民らで賑わいを見せていた。

函館ペリーボート競漕

函館港まつりの協賛イベントで、8人乗りの手こぎボートでスピードを競う「函館ペリーボート競漕」が7月30日（日）、函館港の若松南埠頭前で開かれた。

1854年（安政元年）にペリー艦隊が箱館に入港した際、箱館奉行が8人乗りの小舟で艦隊に向かった史実に由来



スタート準備のペリーボート

するレースで、2009年に開港150周年の記念イベントとして初開催され、今年で9回目の開催。

レースは一般の部41チーム、女子の部7チームに分かれ、全長150メートルのコースで3隻ずつ出場、1位が勝ち上がるトーナメント方式で競った。ボートは先頭の1人がドラをたたきリズムを取り、後方の1人が舵を操作。6人がタイミングを合わせながらオールを漕ぎ、優勝を目指して白熱したレースを繰り広げた。



力漕する参加チーム

むろらん港鉄人舟漕ぎ大会

第6回室蘭港のイベントの中でも市民の人気の高い「むろらん港鉄人舟漕ぎ大会」が9月3日、室蘭港中央埠頭旅客船バースで「スワンフェスタ2017」と今年から同時開催された。

レースは全長7mのボートに7、8人が乗り込み、150m（往路90m、復路60m）のコースで競った。22チームが出場し、タイムトライアル形式の予選で、準決勝に進んだ9チームによる3レースの各1位で決勝が行われる予定だったが、強風で決勝戦が中止となり、準決勝のタイムで順位を決めた。

レースは強風からコースを外れるチームもあったが、漕ぎ手の掛け声とともに懸命にゴールを目指した。優勝は「ゴーイング黒江号改め無敵艦隊赤坂」で1分58秒31のタイムで2位の「グラッツェ日鋼」に約10秒の差をつけた。

白川皓一実行委員長は「他の町ではできない、室蘭ならではのイベントとして、今後も継続したい」と話していた。

（記事は室蘭民法から抜粋）



勝利に歓喜をあげている様子



レースの状況



大会の看板

稚内副港ボートレース開催

第10回稚内副港ボートレースが、8月6日（日）稚内港第1副港で今年は初出場や女子チームを含む26チームが参加して開催され、優勝賞金20万円を目指して

白熱したレースが展開された。

優勝は2015大会に続き「24'S（野球・ソフトボールチーム）」が2度目の栄冠に輝いたが、決勝レースは、ほぼ横一線で白熱した展開となり、最終の直線で「24'S」が「FUCK'N CREW（同級生）」を僅差でかわして、逆転での決着ゴールとなった。



開会式の模様



懸命に漕ぐ参加チーム

◎事務局だより◎

北海道港湾空港建設協会

【広報委員会】

- 1) 平成29年 6月21日 (水)
広報誌「北のみなと92号」編集について
- 2) 平成29年 7月19日 (水)
広報誌「北のみなと92号」編集について
- 3) 平成29年 8月28日 (月)
広報誌「北のみなと92号」編集について

◎業界だより◎

◎会員代表者の交代

- ハラダ工業株式会社
代表取締役社長 近藤 捷介 平成29年 5月
- 飛鳥建設株式会社札幌支店
支店長 山上 雅弘 平成29年 7月

◎広報委員会だより◎

平成29年 9月現在の広報委員会は次表のとおりです。

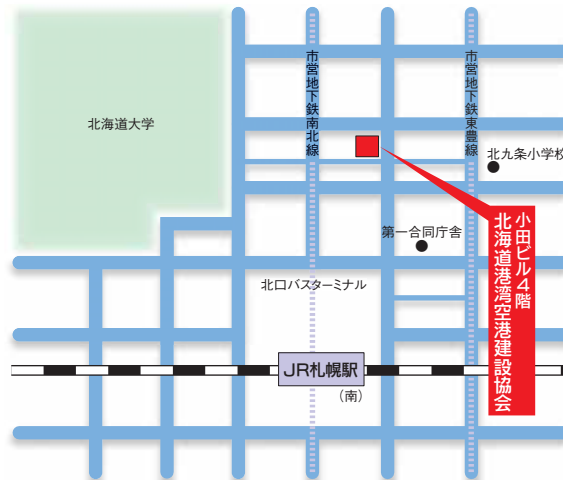
委員長	金子 功	東亜建設工業(株)
副委員長	白川 隆司	東洋建設(株)
(部会長)	大倉 正憲	勇建設(株)
(副部会長)	東 志郎	萩原建設工業(株)
	荒井 直人	東亜建設工業(株)
	毛利 照男	釧石工業(株)
	渡辺 修司	(株)菅原組
	石島 隆司	近藤工業(株)
	渡部 優	菱中建設(株)
	大前 豊	五洋建設(株)
	高田 稔年	あおみ建設(株)



陸揚げ状況

〔写真提供：稚内開発建設部〕

北海道港湾空港建設協会 案内図



会報「北のみなと」No.92

発行年月 平成29年9月
 発行 北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹
 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)
 TEL (011) 707-4731 FAX (011) 707-4733
<http://www.hokkaido-kkk.jp>
 Email: hkkk@h4.dion.ne.jp
 編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会
 編集責任者 大倉 正憲
 印刷 (株)須田製版